

上三川町

まち・ひと・しごと創生総合戦略



平成27年10月

上三川町

目次

まえがき	．．．．．	1
I 基本目標と基本的方向	．．．．．	2
II 具体的な施策と重要業績評価指標		
基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出	．．．．．	3
基本目標 2 子育て世代や若者の定住の促進	．．．．．	5
基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び教育環境の充実	．．．	8
基本目標 4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり	．．．．．	11

まえがき

【策定の目的】

我が国の総人口は、平成 20 年（2008 年）をピークに減少し続け、平成 62 年（2050 年）までに、1 億人を下回る水準に減少すると見込まれています。この人口減少の流れは本町においても同様であり、平成 20 年の約 3 万 1 千 700 人をピークに緩やかな減少が続いています。現在の低出生率や町外への人の流出を克服しなければ、2040 年には 26,800 人程度になるという推計もあります（日本創成会議推計）。

このようなことから、国では平成 26 年 12 月 27 日に、人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をそれぞれ閣議決定しています。

まち・ひと・しごと創生については、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組む必要がありますので、本町においても国の長期ビジョン及び総合戦略並びに県の人口ビジョン及び総合戦略を勘案しつつ、本町における人口の現状と将来展望を提示する「上三川町人口ビジョン」及び「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

【今後の進め方】

国や栃木県の総合戦略と整合性を保ちながら、県や他市町との広域的な連携を進めます。

さらに「地域経済分析システム（RESAS）」に基づく客観的指標による経済分析や、国勢調査の結果、今後も継続的に実施する本町の現状分析や各種町民アンケート等の結果を踏まえ、その時点の状況や町民の意向に沿った見直しを随時行うものとします。

また、効果的な総合戦略を策定し着実に実施していくとともに、数値目標をもとに、実施した施策事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改定するという一連のプロセス（PDCAサイクル）を実行していきます。

【総合計画との関係】

総合計画は、町の総合的な進行・発展を目的としていますが、総合戦略は人口減少克服・地方創生を目的とし人と仕事の好循環によるまちづくりを目指すものであり、両者の目的や施策の範囲は必ずしも一致するものではありません。

しかし、総合計画には人口減少克服・地方創生の内容も含まれているため、本町では、第 7 次総合計画と総合戦略を一体的に取り組みながらも、総合戦略では人口減少克服と地方創生を改めてピックアップし、戦略的な施策を検討します。

【計画期間】

総合戦略の計画期間は、国の総合戦略との整合性を図り、平成 27 年度～平成 31 年度までの 5 年間とします。

I 基本目標と基本的方向

国の総合戦略が定める政策分野や、上三川町第7次総合計画における重点項目・重点プロジェクトを踏まえ、次のように4つの基本目標を設定します。

基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出

基本的方向（1） 農・商・工業の活性化の推進

基本的方向（2） 雇用創出の推進

基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進

基本的方向（1） 定住支援の充実

基本的方向（2） 町の魅力アップの推進

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び教育環境の充実

基本的方向（1） 出会いから結婚・出産・子育て支援の推進

基本的方向（2） 学校教育の充実

基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり

基本的方向（1） 安心安全を地域で守る体制の充実

基本的方向（2） いきいき生活の推進

基本的方向（3） 障がい者支援の充実

【参考】国の基本目標

- ① 地方における安定した雇用を創出する
- ② 地方への新しい人の流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 時代にあった地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

II 具体的な施策（作戦）と重要業績評価指標（KPI）

【基本目標1】 若い世代の就労や雇用の創出

成果目標	基準値	目標（H31）
製造品出荷額等	505,327百万円 (H24 栃木県工業統計調査)	550,000百万円
事業所従業者数	16,174人 (H24 経済センサス)	19,400人

基本的方向（1） 農・商・工業の活性化の推進

本町の活力維持や魅力向上を図るため、町の有する既存資源や地域特性を活かしながら、農業生産基盤の充実や地元商店街の振興、地元各企業と連携した取り組みを進めます。

【作戦①】 地元農業活性化プロジェクト

地元農業の活性化に向け、農業生産基盤を維持する集落営農の組織化や法人化、農地の集積・耕作放棄地の再生、新規就農を支援する助成金の支給や農業体験・週末農業等のイベント開催などの上三川町の農業を活気づける安定した支援を推進します。

KPI	基準値（H26）	目標値（H31）
新規就農者数（年間）	6人	7人
JAうつのみや上三川野菜集出荷所による 青果物販売数量	4,864t	4,900t

【作戦②】 まちの名物をつくろうプロジェクト

黒チャーハンに続く上三川町の新たな名物づくりに向け、主要な農産物である干びょう・アスパラ・トマトなどを活用した新商品開発や、料理コンクールをはじめとしたイベントなどを開催し、さらに都市部への販売ルートを拡大することにより、6次産業化の取り組みを推進します。

KPI	基準値（H26）	目標値（H31）
新商品開発数	—	3種類

【作戦③】 地元企業交流プロジェクト

地元各企業が持つ潜在能力を広く周知することで、町に対する魅力を感じ、将来的な就業や定住につながるよう、町内大手企業をはじめとする地元各企業と連携したイベント開催を推進します。

KPI	基準値（H26）	目標値（H31）
イベント開催数	—	5回

【作戦④】 商業経営の近代化

商工会との連携により、経営改善のための各種制度資金の有効活用や空き店舗活用等の対策を促進します。

K P I	基準値 (H 2 6)	目標値 (H 3 1)
制度融資利用件数	1 8 件	2 3 件

【作戦⑤】 商店街再生に向けた検討

人々が集いにぎわう街の創造を目指し、町民及び事業者との連携のもと、魅力的かつ快適で楽しく便利な商店街の再生について検討します。

現在実施しているプレミアム付き商品券の発行を継続して実施し、町内商店での消費を喚起します。

K P I	基準値 (H 2 6)	目標値 (H 3 1)
町内の商店（大型店以外）で買い物 をしている町民の割合	4 0 . 0 %	4 8 . 0 %

基本的方向（2） 雇用創出の推進

若者世代や子育て世代が安心して働くことができるよう、雇用の場を確保する企業の誘致や、就業・起業のしやすい環境づくりを進めます。

【作戦⑥】 起業化等の支援

町内で新たに起業したい人に対し、事業所・土地の貸し出し支援や、地元金融機関との連携等による助成を図ります。北関東自動車道や新4号国道が走る立地優位性を活かしながら、就業の場としての安定した雇用創出につながる新たな産業基盤整備を進めます。

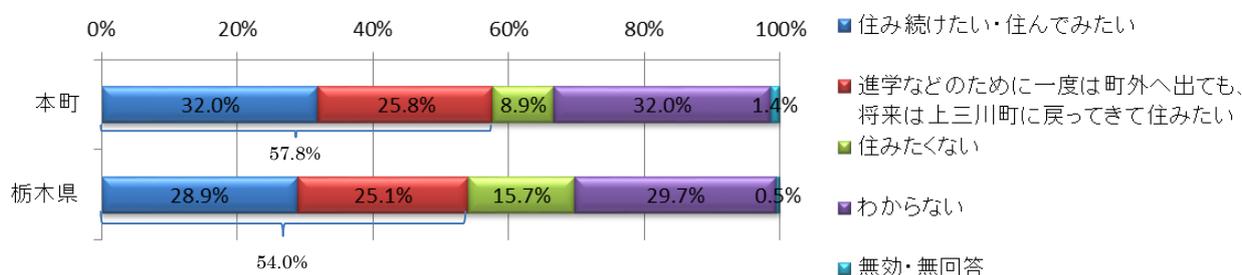
K P I	基準値 (H 2 6)	目標値 (H 3 1)
創業資金融資制度利用件数	1 件	3 件

【基本目標2】 子育て世代や若者の定住の促進

成果目標	基準値（H26）	目標（H31）
社会増減数 (住民基本台帳)	-140人	-100人
町外からの滞在人口（休日） (地域経済分析システム From-to分析)	37,000人	45,000人

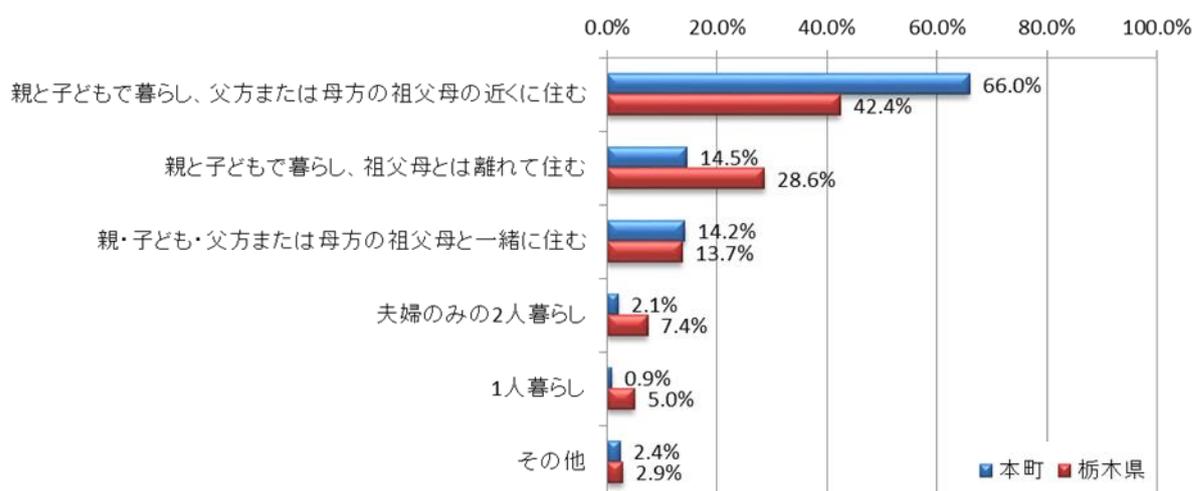
上三川町人口ビジョン意識調査結果より抜粋

定住の意向（15歳～24歳）



「上三川町にこれからも住みたいか」という問いに対し、「住み続けたい」、「将来は戻ってきて住みたい」と答える割合が57.8%となり、栃木県の意識調査結果（54.0%）よりも定住意向が高い傾向があります。

理想の家族形態（25歳～40歳）



理想の家族形態の問いに対し、祖父母とは「同居」ではなく「近居」を理想としている人が多いことが分かりました。栃木県と比較しても、「同居」より「近居」を理想とする割合が高い傾向があります。

基本的方向（１） 定住支援の充実

町民の高い定住意向や町外からの新たな移住を見据え、その受け皿となる利便性の高い居住環境の整備や、定住を後押しするサービス・支援の充実を図ります。

【作戦①】空き家対策事業

地方移住希望者の定住を促すため、空き家となっている土地・家屋のデータ整理、空き家バンク等の設置による情報の提供、空き家を必要とする方へのマッチング支援などを推進します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
空き家の利活用件数	—	10件

【作戦②】住宅・宅地の供給促進

より多くの定住を受け入れるため、既成市街地の都市基盤整備を推進するとともに、町営住宅の長寿命化計画に基づく更新を進めます。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
町営住宅の改修率	28%	85%

【作戦③】定住のための住宅取得支援

親元近くでの居住を希望する声を実現し、また、町外からの移住者への定住促進を図るための住宅取得支援を推進します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
新築住宅件数	209件	250件

基本的方向（２）町の魅力アップの推進

多くの人に上三川町を定住の場として選んでもらえるよう、ブランド力を高める取り組みや、魅力を広く行き渡らせるPR事業を進めます。

【作戦④】上三川町住んでよいとこPR

東京圏をはじめとする町外者の新たな定住の場として選んでもらえるよう、移住ナビなどの様々な広告による定住PRを実施します。また、近隣市町の工業団地等への「交通アクセスの良さ」と「良質な自然環境」を併せ持つ「住みやすい町」としての情報を町外へ広く伝えます。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
全国移住ナビページへのアクセス数	—	10,000件/年

【作戦⑤】上三川町来てよいとこPR

上三川町の観光資源や歴史的文化財、町のキャラクターを町内外に発信し、知名度向上につなげることで、サンフラワー祭りやサマーフェスティバルなどのイベント時の来場者や参加団体の増加を図ります。

KPI	基準値（H26）	目標値（H31）
サンフラワー祭り来場者数	17,000人	20,000人
夕顔サマーフェスティバル参加団体数	18団体	21団体

【作戦⑥】水環境のPR

上三川町は、昔から「三川郷」と呼ばれ、水環境が良く、水資源が豊富な地域です。それらの象徴であるいくつかの公園では水に親しむことができ、上水道では安全でおいしい水を供給し、下水道では家庭から出る排水等をきれいな水に変えています。これらの施設の整備状況を認知してもらい、水の安心安全な町をPRします。

KPI	基準値（H26）	目標値（H31）
上水道の整備状況についての満足度 (まちづくりアンケート加重平均値※)	3.47	4.0
下水道の整備状況についての満足度 (まちづくりアンケート加重平均値※)	2.91	3.5

※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与えて評価点（満足度）を算出

$$\begin{array}{l}
 \text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者} \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「やや満足している」の回答者} \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者} \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「やや不満である」の回答者} \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者} \times -10 \text{点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「満足している」、「やや満足している」、} \\ \text{「どちらともいえない」、「やや不満である」、} \\ \text{「不満である」の回答者数} \end{array}}
 \end{array}$$

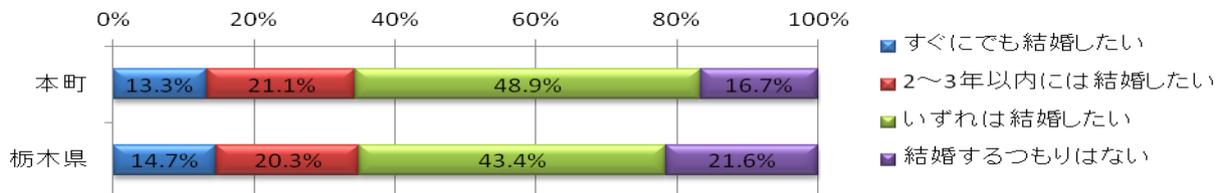
この算出方法により、評価点（満足度）は+10点から-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高くなり、逆に-10点に近くなるほど評価は低くなる。

【基本目標3】 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び 学校教育の充実

成果目標	基準値	目標値（H31）
婚姻届出数	142件 (H25 栃木県保健統計年報)	160件
合計特殊出生率	1.42 (H25 栃木県保健統計年報)	1.45

上三川町人口ビジョン意識調査結果より抜粋

結婚の意向（25歳～40歳）



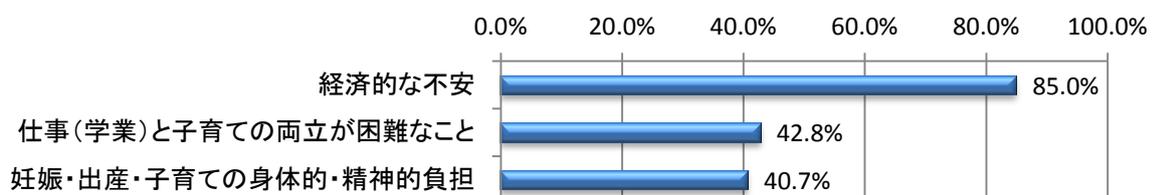
「将来結婚をしたいか」という問いに対し、「すぐにでも結婚したい」、「2～3年以内には結婚したい」、「いずれは結婚したい」と応える割合が83.3%となり、多くの若者が、結婚を望んでいます。

理想的な子どもの人数（25歳～40歳）

	全体		男性		女性	
	本町	栃木県	本町	栃木県	本町	栃木県
20歳代	2.40	2.39	2.18	2.28	2.29	2.34
30歳代			2.46	2.34	2.44	2.37
40歳代				2.45		2.42

理想的な子どもの人数は栃木県の結果とほとんど差異はなく、2.40人でした。

理想的な子どもの人数を増やすために解消されるべき要因



さらに、理想的な子どもの人数を増やすために解消されるべき要因として、8割以上が「経済的な不安」と回答し、同様に約4割が“仕事と子育ての両立の難しさ”“妊娠・出産・子育ての身体的・精神的負担”を解消すべきと回答しています。

基本的方向（１） 出会いから結婚・出産・子育て支援の推進

若者の結婚に対する希望が叶い、安心して出産・子育てができる環境づくりに向け、町独自の視点による経済的不安解消の取り組みや、母親の負担を軽減するサービス・支援の充実を図ります。

【作戦①】 出会い応援プログラム

結婚の希望を叶えるため、関係機関や各種団体が開催する婚活イベントについて、会場の提供や開催情報を発信する等の支援をすることにより、婚活イベントの開催数や参加者数の増加を図ります。また、イベント内容についても、近隣市町との共同開催やテーマを絞り同じ趣味を持つ参加者を募集するなどの工夫を図ります。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
婚活イベント開催数	1回	3回

【作戦②】 妊娠・出産応援プログラム

誰もが安心して子どもを持つことができるよう、妊婦の歯科健診を推進し、歯周病による早産や低体重児出産のリスクを軽減します。また、不妊治療にかかる費用の一部を助成し、妊娠・出産を希望する夫婦の経済的負担を軽減します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
出生児数	248人	248人（現状維持）

【作戦③】 多子世帯応援プログラム

出産・育児やその後の生活に対する経済的不安を軽減するため、他市町との差別化を図りながら、第3子以降の出産祝金・児童医療費助成・第3子以降の保育料減免などの経済的支援を充実します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
第3子以降出生児数	39人	39人（現状維持）

【作戦④】 産後ママ応援プログラム

出産後の母親がリフレッシュして育児にのぞむことができるよう、母親自身の健康管理や生活習慣予防の気づきとなる産後ダイエットの支援や、子育て中の家庭を応援します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
応援プログラム利用者数	—	20人

【作戦⑤】子育て支援の充実

出産後における母親の就労支援のため、乳幼児の保育サービスなど多様化する保育ニーズに応じた保育内容や施設の充実を図ります。

また、出産・育児の精神的負担を軽減するため母親同士の交流や情報交換の場となる子育て支援センターの利活用を促進し、子育て支援の充実を図ります。

K P I	基準値 (H 2 6)	目標値 (H 3 1)
待機児童数	0人	0人
子育て支援センター利用者数	8, 9 1 8人	1 0, 0 0 0人

【作戦⑥】障がい児の療育支援

関係機関との連携を強化し、障がいの早期発見・早期療育体制を確立するとともに、障がい児通所支援事業を充実することにより、障がい児も子育てしやすい環境づくりを推進します。

K P I	基準値 (H 2 6)	目標値 (H 3 1)
1人あたり療育回数	1回/月	4回/月

基本的方向（2） 学校教育の充実

【作戦⑦】特色ある教育活動の推進

上三川町の子ども達のさらなる学力向上を図るため、学習指導要領の改訂に応じた外国語活動の充実や、学習効果の高い I C T機器を活用した教材の導入を進めるとともに、安心・安全及び快適な教育環境の充実を図ります。

また、読書の習慣化を図るため、司書教諭・司書・図書ボランティアの三者が連携し、学校図書館の機能充実や読書活動の推進を図ります。

K P I	基準値 (H 2 6)	目標値 (H 3 1)
タブレット型パソコン台数	0台	1 1 0台
町内学校図書館利用冊数	7 9, 0 0 0冊	8 1, 0 0 0冊

【基本目標 4】誰もが健康で暮らしやすい環境づくり

成果目標	基準値（H26）	目標値（H31）
まちの安心・安全に関する満足度※1	0.70	1.00以上
障がい者福祉に対する町民満足度※2	0.64	1.00以上

※1 まちづくりアンケートにおける「消防・防災体制」、「治水対策」、「交通安全対策」、「防犯体制」の各満足度の加重平均値

※2 まちづくりアンケートにおける加重平均値

基本的方向（1）安心安全を地域で守る体制の充実

災害の少ない本町の長所をさらに伸ばし、より安心・安全な環境づくりに向け、防災体制の強化を図ります。

【作戦①】がんばれ消防団事業

地域防災の核として重要な役割を担う消防団員の確保に向け、消防団活動のPRや事業協賛店における特典サービス等の検討をします。

KPI	基準値（H26）	目標値（H31）
消防団員数	250人	250人（定数確保）

【作戦②】自主防災組織の推進

災害時に対応できる資機材を整備すると共に、町民の防災意識や地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成を促進します。

KPI	基準値（H26）	目標値（H31）
自主防災組織数	—	40箇所

【作戦③】安心・安全！子どもを守るかみたんプロジェクト

子ども達の通学時や日常生活の安全を確保するため、防犯ブザーの配付を図るとともに、かみたんを活用したPRや意識啓発に取り組みます。

また、小中学校の通学路を関係機関と合同で点検し、危険箇所の把握と対策を行うことで、より安心安全な通学路の確保を図ります。

KPI	基準値（H26）	目標値（H31）
交通安全対策の状況に関する町民の満足度 （「満足」「どちらかといえば満足」の割合）	27.6%	50.0%

基本的方向（２）いきいき生活の推進

高齢社会の進展を見据え、お年寄りが様々な交流のなかで、生きがいを持ちながら元気に暮らし続けることのできるサービス・支援の充実を図ります。

【作戦④】 こんにちは、じいちゃん・ばあちゃん訪問事業

ひとり暮らし世帯・高齢者のみの世帯・要援護高齢者に対し、在宅介護支援センターや地域包括支援センター等の関係機関において、定期訪問の実施や安否確認・緊急通報装置の貸与を行うことで、地域で見守る体制づくりを推進します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H29）
安否確認センサーや緊急通報装置の設置者数	70人	85人

【作戦⑤】 生きがいづくり推進事業

高齢者の生きがいにつながる活動の場として、生きがいサロンの継続実施や、文化・スポーツなど多様な学習機会の提供を図ります。高齢者世代と若者世代との交流機会の確保に向け、地域のお年寄りの訪問事業などを進めます。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
生きがいサロンの参加延べ人数	4,207人	4,500人

【作戦⑥】 健康づくりの意識づけ支援事業

健康マイレージ事業などを推進し、健診受診率の向上や住民が主体的に健康づくりに取り組む意識付けを支援します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H29）
健康マイレージ参加者数	—	900人

【作戦⑦】 運動のきっかけづくり支援事業

運動を習慣化するきっかけづくりとして、各種教室や大会等のイベントを開催し、町民1人1スポーツを推進します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
週1回以上の運動をしている町民の割合	30%	40%

基本的方向（3） 障がい者支援の充実

障がい者やその家族に対するサービスを充実させることで、安心して住み続けられるまちづくりを進めます。

【作戦⑧】障がい者雇用の充実

障がい者支援施設で製造・販売しているパンの販路を新規開拓するとともに、安定した供給体制を整備することにより、売り上げ増・就労者の工賃増を図ります。また、就労の場を確保することにより、障がい者の社会参加を促します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
就労者の賃金（時給換算）	130円	栃木県最低賃金の3分の1 （245円）以上

【作戦⑨】音声広報による情報提供

町広報の情報を音声データに変換し配布することで、目の不自由な住民が必要としている情報を出来るだけ平等に提供し、障がい者に安心して暮らせるまちづくりを推進します。

K P I	基準値（H26）	目標値（H31）
音声広報CDの利用者数	—	20人

【参考資料】

1 上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定経過

年月日	内容
平成 26 年 12 月 2 日	まち・ひと・しごと創生法施行（国）
平成 26 年 12 月 27 日	「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」閣議決定（国）
平成 27 年 5 月 1 日	「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会」、「上三川町まち・ひと・しごと創生本部」及び「上三川町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム」設置要綱の制定
平成 27 年 5 月 22 日	第 1 回上三川町まち・ひと・しごと創生本部会議 ○上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について ○上三川町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチームについて
平成 27 年 5 月 29 日～ 平成 27 年 6 月 12 日	町民アンケートの実施 (1) 進路・Uターン・定住希望調査 対象者：町内に居住する若者（15 歳～24 歳） 1, 0 0 0 人 回収数：2 9 1（回収率：2 9. 1 %） (2) 結婚・出産・子育てに関する調査 対象者：町内に居住する若者（25 歳～40 歳） 1, 0 0 0 人 回収数：3 4 3（回収率：3 4. 3 %） ※ 栃木県全体との比較が出来るよう、設問を合わせて実施
平成 27 年 6 月 4 日	上三川町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム事前説明会 ○町長訓示 ○総合戦略について ○今後の進め方について ○第 1 回プロジェクトチーム会議までの事前課題
平成 27 年 6 月 10 日	第 1 回プロジェクトチーム会議 テーマ別に討論 ○地方における安定した雇用を創出する ○時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
平成 27 年 6 月 24 日	プロジェクトチーム事前会議 ○栃木銀行との情報交換 ○町民アンケート結果速報 ○次回プロジェクトチーム会議事前課題配布

平成 27 年 6 月 30 日	第 2 回プロジェクトチーム会議 町民アンケート結果を踏まえ、テーマ別に討論 ○若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ○地方への新しい人の流れをつくる
平成 27 年 7 月 7 日	プロジェクトチーム事前会議 ○足利銀行との情報交換会 ○次回プロジェクトチーム会議事前課題配布
平成 27 年 7 月 14 日	第 3 回プロジェクトチーム会議 ○前回までの会議で出た事業提案の整理
平成 27 年 8 月 24 日	第 2 回上三川町まち・ひと・しごと創生本部会議 ○「上三川町人口ビジョン（案）」及び「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」について
平成 27 年 8 月 27 日	第 1 回まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会 ○「上三川町人口ビジョン（案）」及び「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」について
平成 27 年 9 月 7 日	町議会総務常任委員会に説明後、全議員に配布 ○「上三川町人口ビジョン（案）」及び「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」について、
平成 27 年 9 月 10 日 ～平成 27 年 10 月 9 日	「上三川町人口ビジョン（案）」及び「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」パブリックコメント実施
平成 27 年 10 月 19 日	第 3 回上三川町まち・ひと・しごと創生本部会議 ○「上三川町人口ビジョン（案）」及び「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」について
平成 27 年 10 月 30 日	第 2 回上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会 ○「上三川町人口ビジョン（案）」及び「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」について
平成 27 年 10 月 30 日	「上三川町人口ビジョン」及び「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」決定

2. 上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会委員

番号	所属	役職	委員名	備考
1	上三川町議会	総務文教常任委員長	田村 稔	副会長
2	上三川町議会	経済建設常任委員長	宮崎 哲	
3	上三川町議会	厚生常任委員長	生出 慶一	
4	上三川町商工会	商工会事務局長	河又 順	
5	J A うつのみや	営農経済センター長	鈴木 茂雄	
6	宇都宮大学	国際学部教授	中村 祐司	会長
7	足利銀行	上三川支店長	川上 雅人	
8	栃木銀行	上三川支店長	田宮 真二	
9	公募委員		高田 すみ子	
10	公募委員		菱沼 里美	
11	公募委員		前原 慶子	

3. 上三川町まち・ひと・しごと創生本部委員

役職	所属等
創生本部長	町長
創生副本部長	副町長
委員	教育長、総務課長、企画課長、税務課長、住民生活課長、福祉課長、健康課長、保険課長、産業振興課長、都市建設課長、上下水道課長、教育総務課長、生涯学習課長、農業委員会事務局長、議会事務局長、会計管理者（出納室長）

4. 上三川町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム構成員

役職	氏名等	所属
リーダー	政策調整係長	
サブリーダー	政策調整係 担当	
委員	河井 信人	総務課・議会事務局
	葛西 真弓	企画課
	宮澤 希巳男	住民生活課
	大出 一裕	税務課・出納室
	伊澤 康子	保険課
	高田 哲也	福祉課
	江口 千早	健康課
	谷口 誠	産業振興課・農業委員会
	大瀧 尚光	都市建設課
	日野 浩志	上下水道課
	上野 貴司	教育総務課
	亀井 俊樹	生涯学習課

